西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第349号　平成14年1月

『ご来光』　稲垣壮太郎

目　次

		頁
1）年頭のご挨拶	宮川栄次	2
2）西多摩医師会クリスマス会	葉山　隆	3
3）西多摩保険連絡協議会	星野　誠	5
4）青梅心電図勉強会	田中穂積	6
5）同好会短信		
テニス部ミックスダブルス大会	渡辺良友	7
6）地区だより		
福生地区	波多野元久	7
羽村地区	込田茂夫	8
瑞穂地区	高水松夫	9
青梅地区	細谷純一郎	9
あきる野地区	葉山 隆・小机敏昭	10
7）各部だより		
学術インフォメーション	学術部	11
8）写真部写真展	写真部	14
9）「早期胃癌研究会」見聞記	石井好明	16
10）理事会報告	広報部	17
11）会員通知・医師会の動き	事務局	24
12）お知らせ	事務局	26
13）表紙のことば	稲垣壮太郎	26
14）あとがき	神尾重則	27

新アドレス http://www.nishitama.tokyo.med.or.jp/

年頭のご挨拶

西多摩医師会 会長　宮 川 栄 次

新年明けましておめでとうございます。2002年は、西多摩医師会設立88周年、すなわち米寿を迎えます。この長い歴史の重みをひしひしと感じています。

昨年末は、米国のテロ事件、国内における狂牛病発生などの影響で国会審議が遅れ、予防接種法の一部改正に伴う「高齢者インフルエンザ予防接種」があわただしく施行され、一部公費負担による接種が12月28日をもって終了いたしました。色々わかりにくい点もあったかと存じますが、どうもご苦労様でした。ご協力に感謝いたします。

今年は医療改革が実施されます。健保連の老人医療拠出金負担の軽減と保険医療費への国保負担の削減を、患者負担増で補おうとする今回の医療改革は、真の国民の為の改革とは思えません。年金を含めた社会保障に対する将来不安から個人消費が低迷し、不況からなかなか脱出できない日本の経済状態、社会保障の充実こそ国民の将来不安を取り除く方策、景気回復への道ではないでしょうか。昨年末、改革の大筋が見えてきました。医療費削減は 2.7%、そのうち診療報酬本体、すなわち技術料は 1.3%の削減、高齢者自己負担1割（上限、外来で 12,000円／月)、高所得者2割（上限 40,200円／月)という方針が提示されました。厳しい内容です。昨年行われました日本医師会の「患者負担増による医療保険改革阻止署名運動」に際しましては、ご協力ありがとうございました。少々苦言を申しますと、西多摩医師会Ａ会員184医療機関のうちご協力いただけたのが６４医療機関（34.7%、6450名の署名）、危機感・関心が少ないのでは、と感じました。今後、一般患者の負担増がいつから実施されるのか、その動向を患者さんとともに注意深く見ていくことが重要でしょう。

平成14年度、東京都においては精神保健事業が市町村に移管され、さらに都立病院・保健所の整理・統合が行われることになっています。地域住民にとって不便になることは間違いありません。また、ＥＲ構想が始まっていますが、特に小児科の対応が大変のようです。しばらくの間は色々混乱が予想されます。

西多摩三公立病院にも大きな動きがあります。昨年、福生病院が公立化され、本年から今後の病院のあり方を定める基本構想策定審議会が始まり、公立阿伎留病院は新病院建設計画が進み、380床に増床することが決定されています。また、青梅市立総合病院は救急救命センターがフル回転している状況です。今後、各病院の役割分担等が議論され、より良い方向に発展して行くものと期待しております。

西多摩医師会では、昨年から医療連携推進事業としてのホームページ作成に入り、各医療機関のご協力を得て開設することができました。各病院・診療所の診療内容・特徴が確認できる態勢が整ってまいりました。今後もさらなるご協力をお願いいたします。

西多摩地域産業保健センターは、本年度より随時対応健康相談窓口を開設することになりました。29の認定医療機関がエントリーされ、中小企業の従業員が相談しやすい態勢をとることになります。

今年は役員改選の年です。若い先生方にお願いします。是非、医師会活動に目を向けてください。宜しくお願いいたします。

永井事務長をはじめ、事務員の方々には、あわただしい動きの中で的確に事務処理をこなしていただけていること、心より感謝いたしております。今年も宜しくお願いいたします。

最後に各会員にお願いがあります。毎年、年頭にお願いすることですが、医師会主催の講演会・各種行事等へのさらなるご出席をお願いします。昨今の厳しい社会情勢の中、結束を固めていくことが必要と考えております。宜しくお願いいたします。

西多摩医師会クリスマス会

恒例の西多摩医師会主催のクリスマス会が、12月17日(月)に昭島にあるフォレストイン昭和館の2階宴会場にて開かれました。今回は各医療機関の職員の方々による余興コーナーを設けました。

午後7時半、宮川会長による開宴の挨拶に続き、内山　大先生の乾杯のご発声により宴会が始まりました。そして皆さんが中央に設えたテーブル上の様々な料理の最初の一皿を食べ終えたころ、今回の目玉企画、余興コーナーが始まりました。

まず最初は梅園病院の方々の口ぱくダンス、ノリの良い音楽と若さ溢れる踊り、楽しめました。2番目は、青梅市立総合病院の方々の中南米の踊り、衣装がきれい、踊りが幻想的でした。3番目は真鍋クリニックの方々の歌詞に合わせた寸劇風ダンス、大したもんだなと感激。4番目は道又先生と小机先生のカントリーミュージック、カーボーイ風の帽子をかぶり、良い声でしたが、やや高齢の男二人組ですから前後の組みの若さと華やかさにはとてもかないませんでした。最後に大聖病院の方々によるハワイアンダンス、これもまた素人とは思えないほどで、このダンスの奥深さを見せてくれました。

この後、玉木副会長が厳正な審査のもと順位を付け賞金を手渡す予定が、どれもすばらしく、なかなか決まらないので、その間にプロの方によるフラメンコショーを楽しみました。いやーこれもすばらしいものでした。もうスペインへ行く必要はないなとも思いました。そして、余興の順位発表、苦渋の決断として皆様が一位となりました。

また開宴中、ピエロさんが会場を回り、子供達や若い女性に風船で動物やお花を作ったり、手品を披露したりしていました。

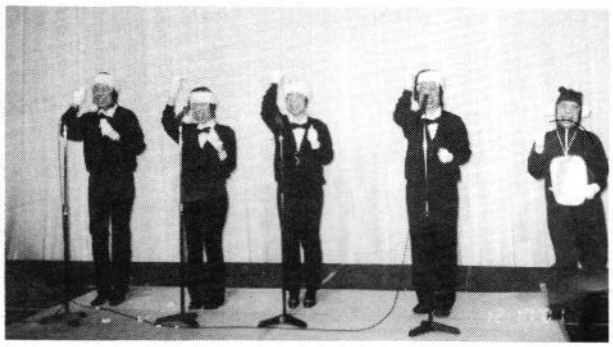
これだけ盛り沢山のアトラクションですから、もう時間がありません。駆け足で、子供達へのクリスマスプレゼント、そしてこれ又恒例のビンゴ大会。沢山の豪華な商品が喜びの人々へ送られました。

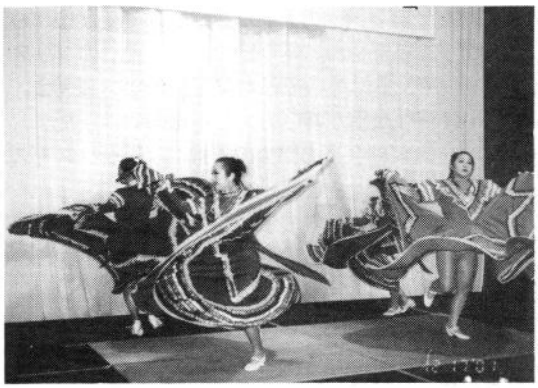
最後に真鍋副会長の閉会の挨拶によりクリスマス会は賑やかにお開きとなりました。

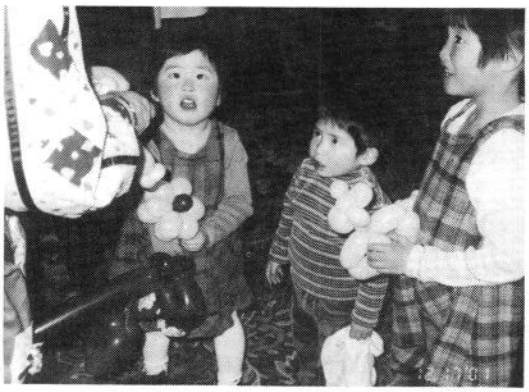
今回は、総計228名の参加をいただきました。内訳はA会員41名、B会員14名、同伴者126名、こども47名でした。

そして最後に宣伝。このクリスマス会は、先生、その御家族そして従業員とその御家族の方々が、西多摩医師会として一体となって和やかに集い、楽しく過ごすために催されています。忙しい時期ですので、大変であると思いますが、来年もどうぞより一層の御参加をお願いいたします。　　（葉山　隆）

MERRY X'MAS







平成13年度 西多摩医師会クリスマス会

西多摩保険連絡協議会

第17回西多摩保険連絡協議会が、平成13年11月29日（木）午後２時より青梅市教育センターにて開催されました。

今回は、青梅市教育委員会が当番で、西多摩地区の教育委員会、小・中学校長及び西多摩医師会より多数の方が出席され、青梅市教育委員会総務課長の司会にて会は進行されました。まず西多摩保険連絡協議会代表として星野（筆者）の挨拶に続き、西多摩医師会より真鍋　勉副会長、青梅市教育委員会学校教育部長（代）より挨拶をしていただいた後、講演会に移りました。

今回の演題は『アレルギーについて』と題して東京医科大学八王子医療センター小児科部長代行　岩坪　秀樹 先生に講演していただきました。（講演内容要旨は下記に記載）

講演会の後、奥多摩町立小河内中学校　青木　重信 校長より閉会の言葉があり第17回西多摩学校保険連絡協議会は終了しました。

次回は瑞穂町の担当にて開催される予定です。　（文責：星野）

講演の要旨

近年、アレルギー性疾患は増加の傾向にあるといわれ、小児の気管支喘息も例外ではなく、その有病率は小学校低学年では多いところでは10％を超えている。そのため、学校関係者（担任教師、養護教師）も小児の気管支喘息の知識を深め、学校保険の場においても適切な対応ができることが望まれる。

現在、気管支喘息がアレルギー反応に基づいた気道の慢性の炎症性疾患であるとの概念は小児においても定着し、その考えに基づいて気管支喘息の長期管理及び急性発作の治療が行われている。

具体的な小児気管支喘息の治療と管理は、2000年に日本小児アレルギー学会から提示された「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン」により行われ、優れた成績を上げており、喘息児のＱＯＬの向上に結びついている。

しかし、学校生活の場では、喘息児の団体生活への制限は、健常児より厳しい条件となっていることは未だゆがめない。実際には、発作時の対応、入院・通院による欠席による学習の遅れ、遠足・修学旅行など学校行事、掃除当番・飼育係、運動・体育などの問題点が挙げられ、特に喘息児には運動時に発作を誘発する運動誘発発作があることを理解し、その対処策を立てることが必要である。

これらの問題点を解決し、よりよい学校生活を送るためには、学校関係者（担任教師、養護教師）と患児本人および保護者さらには主治医が協力し情報交換を行い連携を深めていくことが必要と考えられる。

（文責：岩坪）

第4回　青梅心電図勉強会

平成13年11月14日（水）
青梅総合病院　南棟3階講堂

第4回目になり、19名のドクターが集まり総合病院の先生方とのコミュニケーションもとれ楽しい会になって来ました。

ミニレクチャー　1

“心房細動を起こす前の心電図等に関する検討”

小作駅前クリニック　奥村充先生

どのような症例に心房細動（a.f）がおこるか、発症前の状態を検討したもので、今年の多摩医学会で発表したものをお話しいただきました。症例は66例（男37例、女29例、年齢35～90歳）で、基礎疾患として高血圧、27例、虚血心、24例、弁膜症、6例、その他で、何らかの心疾患がある症例に多かった。心電図上 a.f 群では前に上室性期外収縮を認めた例は19.7%、対照群では2%でした。左房の状態を良く表すと言われる、P 波の幅、振幅、P terminal face V1等、対照群に比し、大きかった。af 発作予防として、基礎疾患のコントロールが大切である事。高血圧症に対してのジヒドロピリジン系 Ca 拮抗剤（アムロジピン、アダラート等）は他剤に比し、もしかすると af を誘発する可能性があるのかもしれない。そして P 波の異常を認めた時、その可能性を常に考慮すべきである。

ミニレクチャー　2

“健診で心電図 ST・T 異常を見たとき”

田中医院　田中穂積先生

副題としては、市健診で40～50代の女性の ST・T 異常心電図を見た時どうしますか？という事で、心疾患に由来する症状は何もありません。無症候性心筋虚血としての Cohn の分類（表1）による1型の範疇に入る症例です。

しかし、我々開業医としまして、Bruce のトレッドミル負荷テストのような思いきった負荷はかけられません。何かアクシデントがおこった時、我々開業医では対応が出来ないからです。そこでかなり安全性があり、なおかつある程度の冠疾患を見つけ出せる一つの目安としての私流のトレッドミル負荷テストについてお話しします。負荷は江戸時代の旅人の歩行速度で箱根の山を少し登ってもらうという事にしました。すなわち一里、半時、傾斜率8度です。トレッドミルの歩行器は最近、家具屋で売っているものでも充分で、時速4㎞、3分間、角度8度です。直前に心電図を、終了後すぐに横になり、直後と3分後にとります。判定はJ点から 80 msec における ST 下降、0.1mV 以上、T 波の平低化、陰転化を陽性とした。

◆ 表1　無症候性心筋虚血の臨床的分類

1型	心筋梗塞や狭心症の既往がなく、全く無症状の心筋虚血
2型	心筋梗塞に生じた症状の伴わない心筋虚血
3型	明らかな狭心症を有するが、同時に無症状の心筋虚血も示す

ST・T 異常症例の30%位に陽性例を認め、このような症例には“いわゆる冠拡張剤”を投与し follow up している。興味ある症例として、57歳、男性、タバコ60本／日例である。この程度の負荷で陽性に出た。男性であり、ヘビィースモーカーである事より、すぐに青梅総合病院に紹介、冠動脈造影にて、左前下行枝に90%の狭窄を認め、ステントを挿入、本年8月には富士山に登って来た。毎年やっており本年も無事に帰って来た。もちろん、主治医にはだまって行って来たようですが。

現在まで300例以上おこなってますが、特にアクシデントもなく、狭心症例、心筋梗塞例の状態の判定に非常に役立っています。

この程度の負荷で心疾患が発見されるなら軽く考え、おこなってみるのも良いと思います。

症例検討は2例がおこなわれた。

今後、開業医の先生方が総合病院に紹介した患者さんの詳しい検査結果についても検討していただけるよう、申し込む予定にしています。

こんな心電図ではと思う前に症例を持って来て参加して下さい。　　（記　田中）

同好会短信

西多摩医師会テニスミックスダブルス大会開かる

平成13年12月2日 AM11：30より 昭島市昭和の森 室内人工芝にてミックスダブルスが行われた。真鍋先生には元全日本チャンピオンの飽浦プロがペアとなり、他のチームを全く寄せつけず全勝、準優勝には渡辺・渡辺組が入った。

シャワーで汗を流したあと近くのそば屋「あらい」で大いに盛り上り、二次会は昭和館「ダコタ」のカラオケルームを貸切り、ボジョレーヌーボーにて喉をうるおした。そこでの主役はやはり宮城先生でした。（渡辺記）

地区だより

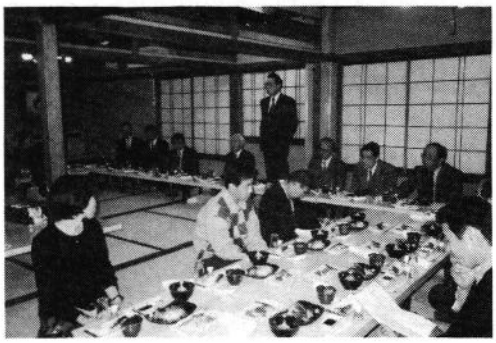
福生地区　福生医師会便り

平成13年12月13日福生の「あたみ」にて福生医師会、休日診療所合同忘年会が開催されました。ご多忙のところ下記の方々にご出席頂きました。

来　賓

野澤久人福生市長　山下進福生市議会議長　遠藤洋一市議会市民厚生委員長
森田雅樹福生市福祉部長　羽生潤子福生市健康管理課長　古谷久雄健康管理係長他３名
青木真江保健指導係長他６名　増井厚和福生市薬剤師会会長他４名　　以上

医師会会員17名　看護婦６名



坂元善治事務局長の司会で会が始まりました。

福生医師会会長林先生の一年間の労をねぎらう挨拶があり、次に福生市長から医療行政の急激な変化に対する医師会の好意的活動に対し、感謝の言葉がありました。

内山先生のご発声による乾杯後、コンパニオンをまじえて和やかに歓談しました。閉会の辞は、ご指名により幹事を代表して私が挨拶させていただきました。

お世話になっている福生市職員、公的機関の方、又、薬剤師をはじめ数々の私的機関の方々、今年一年本当に有り難うございました。

ふりかえって楽しい思い出は残し、苦労だった事は年とともに忘れ、来年は午年で、占いによると『陽気が現れる年』だそうです。

福生医師会員一同は、医療と介護を通じ、市民の為、健康と福祉で協力したいと存じます。

来年こそ、福が生まれる（福生）いい年（十四）、になるよう祈念しております。

（幹事　波多野元久）

羽村地区　羽村市医師会忘年会

NEW WANTED for hazardous journey. Small wages, bitter cold, long months of complete darkness, constant danger, safe return doutful. Honor and recognition in case of success —— Ernest Shackleton.

「求む男子。至難の旅。僅かな報酬。極寒。暗黒の長い日々。絶えざる危険。生還の保障なし。成功の暁には名誉と賞賛を得る。」

毎年、忘年会の案内状をもらうとこんな気分になる。十二月は忙しく疲れ果てているのに、割烹「かつら」までの道のりは暗く、寒く、時には危険？に満ちている。それでも普段なかなか会えない会員の顔を見たくて、出掛けてしまうのだ。勿論、名誉も賞賛も得られないが。

今年は真鍋会長の開会の挨拶が終わった頃、並木羽村市長のご臨席を頂いた。就任九ヶ月とのことで、井上前市長に比べるとまだまだ挨拶がぎこちない。「これからですよ。」と健康課長さん。ホームページの英文紹介はご自分で書かれたそうだがまあまあじゃないですか。息子さんに相談してさらによくするとのこと。がんばってください。

今年の忘年会の第一の特徴は、やはり会員数の増加による参加人数の増加であろう。今回は山田学先生が机の端に座らざるを得なかった。数の増加は物理的な影響をもたらしたばかりではなく、多くの先生と話をしたいと思うと限られた時間での突っ込んだ話が難しくなった。断片的な情報が行き交うことになる。それでも大久保先生から戦時中、空襲で九段の実家が焼けてつらかったことなど貴重な話を伺えたのは収穫であった。横内先生の老子の話は「器の空なることに価値があるのだ」という以外、詳しく伺うことができなかった。そちらの研究はなかなか忙しく進んでいないとのことであった。医学雑誌・新聞にあれだけ頻繁に論文を投稿されれば当然であろう。松田先生は夏、息子さん夫婦とカナダに旅されたそうだが、イタリアの方が趣味に合うとのこと。旅行記を書いてくださいませんか。滝浦先生は腰を据えて飲んでいるのだが、やたら人の手を握り締めて離さない。真鍋先生は甲にKissまでされている。それでも離さないので、隣席の独身の山下先生の手を握らせ退散した。小生も同じように山下先生の手を握らせ退散したが、その後男同士の二人がどのくらいの間、手を握り合っていたかは関知しない。関谷先生は相棒の川口先生が青梅に開院したので、仕事が大変になったとのこと。川口先生が当医師会に顔を見せられないのは寂しいことだ。

第二の特徴は三枝先生や松原先生が欠席されたことだ。存在感のある先生方がいないと忘年会自体が成立しない気がする。特に松原先生のダミ声がないと忘年会にならない。

出席者の三分の二は若手または新入会員の先生になってしまった。医師会も年毎に密やかに移り変わっていく。狂牛病とアフガンと炭疽菌に明け暮れた一年がもう数日で失われてしまうように。

幹事の道佛先生、会計の奥村先生ご苦労様でした。

今回、忘年会の記事は勘弁させてもらいたかったが、午前診療中に編集長の森本先生からどうしても明日までに記事を書けとの指示があり、こうして深夜二時までこんなアホな文章を書いてしまった。明日は土曜なのに四時位まで診療をして、その後は職員とボーリング大会、夜は忘年会である。明日の今ごろは生きているだろうか。

In appreciation for whatever it is that makes men acomplish the impossible

（人間に不可能なことを成し遂げさせる何者かに感謝を捧げて）

—— Alfred Lansing：エンデュアランス号漂流　より）

（込田茂夫）

瑞穂地区　2001年　忘年会

毎年恒例となっている瑞穂町医師会の先生方と保健センター職員及び各種事業に協力していただいている看護婦の皆さんが一堂に集まっての忘年会が、12月11日(火)の夜、飯能市の割烹「清河園」にて盛大に開催されました。毎年、この忘年会は寒い日に当たるようで、今年も例年通り寒さが身に凍みる夜でしたが、参加者の熱気か飲み過ぎ？で、帰りには皆さん寒さも感じられないほど上機嫌となりました。

最初に、医師会長の丸野先生から、日頃の協力の御礼を述べられながら、今年を振り返り、「新しい世紀スタートの希望の年でしたが、景気低迷、国内外での凶悪事件や米国でのテロ事件等良いニュースがない中で、イチロー選手や高橋尚子選手の活躍、12月に入っての皇太子妃雅子様の愛子様ご出産の明るい話題もあって救われましたね。」とのあいさつがあり、続いて上野保健課長からは「今年も医師会の先生方及び看護婦の皆さんには、町の各種保健事業に対し、ご協力いただき事故も無く無事に過ぎたこと、特に先生方には、急遽高齢者のインフルエンザ予防接種をお願いするなど本当にありがとうございました。」と御礼が述べられました。

高水先生の乾杯の音頭により、賑やかな宴席が始まりおいしい料理と参加者が持っているさまざまな話題を肴に、お酒の量も進み、あちらこちらで会話が盛り上がっていました。普段では、見られない皆さんの姿や話題に触れられ、とても有意義でした。その後、これも毎年恒例のビンゴゲームが行われ、皆一喜一憂しながら宝くじをはじめ豪華？な賞品が全員に渡り、宴会も最高潮に達しました。

あっという間に時間が経過し、名残惜しい所でしたが、副会長の新井先生の「来年も皆さんで一致団結し、事故がないよう気を引き締めて頑張りましょう。」のメで、新しい年が良い年になることを念じて楽しい宴席を閉じました。　（高水松夫）

青梅地区　青梅医師会忘年会

青梅医師会忘年会が平成13年12月13日(木) 午後７時30分より青梅市の三河屋において27名の会員が出席して行なわれました。開宴に先立ち、青梅医師会長 石田信彦先生、青梅市立総合病院院長 星　和夫先生の挨拶の後、土田守一先生の乾杯の音頭で華やかに始まった。例年の如くに盛り上がり、懇親を深め、９時30分、細谷の一本締めで幕をとじた。　（文責：細谷純一郎）

第１回　青梅地区痴呆セミナー　＝医師会生涯教育認定講座＝

寒冷の候、先生方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、下記の通り**「痴呆」**をテーマにしたセミナーを企画致しました。

老齢者人口の増加に伴い、痴呆診断の重要性は高まっていくことが予想されます。

今回企画致しました「痴呆セミナー」は今後シリーズ化し、地域での痴呆性老人を支援する体制を検討できればと考える次第です。

つきましては、ご多忙とは存じますが、御出席賜りますようお願い致します。

青梅市医師会　学術担当：坂本　保己

細谷純一郎

記

日時：平成14年１月30日(水)　午後７時45分～

会場：青梅市立総合病院　南棟３階講堂

青梅市東青梅４－16－５　TEL 0428-22-3191

司会：青梅市立総合病院　神経科部長　三ッ汐　洋 先生

細谷内科医院　院長　細谷純一郎 先生

特別講演

「日常診療における痴呆の診断」

講師：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

精神行動医学　助手　田　中　邦　明 先生

共催：青梅市医師会

エーザイ株式会社

ファイザー製薬株式会社

なお、会場にて軽食をご用意しております。

あきる野地区　あきる野市地区医師会忘年会

あきる野市地区医師会忘年会は、12月13日(木)あきる野市健康課の職員の方々とともに、あきる野市医療連絡協議会の総会として、五日市にある黒茶屋で午後７時より開かれた。参加者は医師会側から13名、阿伎留病院より２名それに健康課職員のほとんど全員と大変賑やかであった。小机地区長とあきる野市福祉部長より開宴の挨拶があり宴会は始まった。席順は医師と市職員とが交互に隣り合うように設定されていて、日頃面識の少ない方々と親交が持てるように配慮されている。和やかな歓談の後、ビンゴ大会にて全員に賞品がいき渡ってお開きとなった。　（葉山　隆）

あきる野地区痴呆セミナー報告

あきる野市地区会は、平成13年11月26日(月)、秋川ふれあいセンターホールにおいて、第１回あきる野地区痴呆セミナーを開催した。このセミナーは、痴呆を早期発見し、進行を抑制するため、及び痴呆性老人を医療・福祉・介護・保健の連携により地域ぐるみで支援するためのネットワーク作りの手掛かりになれば、ということで企画した。

公立阿伎留病院と連携のもと、３回シリーズを予定し、今回のテーマは「痴呆の早期診断の重要性」である。特別講演は公立阿伎留病院脳神経外科　矢崎弘人先生にお願いし、演題名は「阿伎留病院脳神経外科　物忘れ外来に於ける痴呆の診断」、医師会・市福祉部関係・社協・介護保険事業に関係する地域の施設、サービス事業者・ケアマネージャーなど、144名という予想以上の関係者が参加し、皆の問題意識が高いことがよくわかった。

演題では、痴呆の種類・簡易テスト・診断・治る痴呆・治療などに関し分かりやすくお話いただき、医療と福祉・介護・保健との連携の重要性につき指摘された。講演終了後、質疑応答が活発に行われ、予定の時間を30分以上オーバーした。

今回の痴呆セミナーは各人にとって大変意義のあるものとなり、医師会がこのような形で情報提供し、地域の状況、支援事業者・サービス事業者からの悩み・問題点などを共有化していくことが地域の福祉向上に役立つ、ということを認識できた。今後のテーマは、「痴呆の治療とケアについて」「痴呆性老人の地域支援体制について」を予定している。　（小机敏昭）

各部だより

学術部 Information

≪1月≫

西多摩医師会学術講演会のご案内

1 日　時：平成14年1月25日（金）
場　所：西多摩医師会館
演　題：『脳梗塞の診断と治療 －最近の話題と病診連携に関して－』
東京医科大学八王子医療センター老年病科　部長　金　谷　潔　史 先生

2 日　時：平成14年1月30日（水）
場　所：青梅市立総合病院　南棟3階講堂
演　題：『日常診療における痴呆の診断』
東京医科歯科大学精神行動医学　助手　田　中　邦　明 先生

《学術講演会要旨1》

平成13年11月14日（水）
演題：「肩こり・腰痛・咳嗽・浮腫に対する漢方療法」－西多摩に多い疾患を中心として－
講師：石川クリニック　院長　石　川　友　章 先生

病は発症から治癒まで多彩な変化を見せるが、その治療法である漢方は正に時の医学と呼ぶにふさわしいものである。

漢方では病の初期と中期に対する処方は全く異なる内容である。従って、目の前にいる患者の病期が初期であるか中期であるかを判断することが治療上大切になってくる。漢方の診断法は病期を的確に判断するために、望診（視診）、問診、聞診、切診（脈診と腹診）と言う方法で行っている。

特に日本の漢方では腹診を重視する。漢方は長く飲まないと効かないという考えが多いが、診断に時の概念を用いることで早期に効果が現れるようになる。

実際にインフルエンザ等においては、漢方薬投与後、数時間で軽快する例が多くみられる。

今回は西多摩に多い疾患として、肩こり、腰痛・咳嗽・浮腫を取り上げ、漢方の使い分けを実際の診療に即した形でお話したい。

肩こりの急性期においては、風邪の初期症状に汎用する葛根湯が有効である例が多く、慢

性期に入ると大柴胡湯など、柴胡剤を用いる。

他にも、食傷の場合は六君子湯、朝に頭痛がある場合は釣藤散、などの使い分けを行う。

古くから、右の肩がこる場合は柴胡剤を用い、左の肩がこる場合は呉朱萸を含む処方を用いることが多い。

腰痛においては、まず瘀血からくるもの、胸脇苦満からくるもの、腎虚からくるもの、体力の衰えからくるもの等、その原因を明らかにすることが重要である。

それぞれ、当帰芍薬散、大柴胡湯、八味地黄丸、十全大補湯などが用いられている。

咳嗽も初期には麻黄湯、葛根湯、小青竜湯のような麻黄剤を主として用い、中期には柴朴湯、滋陰至宝湯のような柴胡剤や麦門冬湯のような滋潤剤を投与する。

浮腫の多くは水の代謝に拘わっていることが多いため、第一選択は五苓散のような利水剤を用いることが多い。

漢方を上手く使いこなすには今はどの時期？という見方が大切ではないかと考えている。

（石川友章）

《三公立病院学術講演会要旨1》

平成13年11月28日（水）

演題：「くも膜下出血の術前検査と手術」

講師：公立福生病院脳神経外科　小　山　英　樹 先生

くも膜下出血手術の要点は安全に脳動脈瘤ネックをクリッピングすることである。そのための方策として血管の三次元画像検査の有用性を強調したい。三次元画像検査として3D－CTA ・3D－MRA ・3D－DSA がある。現在当院で施行可能なのは3D－MRA である。そこで3D－MRA の画像を供覧し術中所見とも対比する。3D－MRA では脳動脈瘤と周囲血管の位置を詳細に知り、術野でブラインドになる部位の情報が得られる。問題点は検査時間が6分かかり検査中騒音があることである。手術のもう一つの要点として脳血管攣縮予防のための血腫除去がある。私は tPA を用いての術中脳槽内洗浄の経験が5症例あるがその結果を提示したい。通常の洗浄と比べると血腫の除去効果は高く、術後脳槽還流法と比較すると煩雑さが省けむしろ安全性が高い印象を受けた。問題点は保険診療の適応外であることと安全性の確立である。脳動脈瘤の処理法として瘤内コイル塞栓術もある。深部脳動脈瘤や頭蓋底脳動脈瘤では開頭法に勝る有用性が期待できるが、問題点は術中破裂時の処理が困難なことである。近年発展した様々な装置手法を駆使して、より安全有効な手術を心がけたい。

《三公立病院学術講演会要旨2》

平成13年11月28日(水)

演題：「脳梗塞の各病型に応じた治療」

講師：公立阿伎留病院神経内科　小　野　真　一 先生

脳梗塞には、1）アテローム血栓性脳梗塞、2）脳塞栓、3）ラクナ（lacuna）の3つの病型があり、成因はもとより、臨床試験から有効性が確立している治療法が異なる。したがって、病型に基づいた治療を行うことが重要である。

1）アテローム血栓性脳梗塞は、内頸動脈や前、中、後大脳動脈など主幹動脈のアテロー

ムに形成される血小板血栓に起因する。主幹動脈の狭窄の検索には、頸動脈超音波、経頭蓋超音波、頭部・頸部MRAなどが行われる。狭窄が有る場合には、ダイアモックス負荷による脳血流シンチグラフィーを行い、脳循環予備能の検索を行う。予備能が低下している場合には、脳神経外科医にコンサルテーションが必要である。アテローム血栓性脳梗塞では、抗血小板療法が適応である。日本で抗血小板剤としてコンセンサスが得られているのは、アスピリン（cyclo-oxygenase 阻害作用）、チクロピジン（ADP 受容体阻害作用）、ジピリダモール（cyclic AMP, GMP phospho-diesterase 阻害作用）、シロスタゾール（cyclic GMP phospho-diesterase 阻害作用）の４つである。このうちアスピリンについては、大規模コントロールスタディの結果から、脳梗塞の予後の改善に対する有効性（1000例治療して６ヶ月後の死亡／ADL 依存を13例減らせる）が確立している（Lancet 349 : 1641-1649, 1997）。日本では、抗トロンビン剤であるアルガトロバン（argatroban）の有効性が示されており（医学のあゆみ 161 : 887-907, 1992）急性期に使用される。

２）脳塞栓は心原性がほとんどである。左室（左房）壁のフィブリン血栓によるもので、皮質を含んだ主幹動脈閉塞が多い。長時間心電図（ambulatory ECG）の他、心腔内血栓の検索にはコントラスト増強心エコー、経食道心エコーなどが推奨される。ヘパリンの脳梗塞急性期における有効性は証明されていないが、心房細動を合併した脳梗塞（その多くは脳塞栓と考えられる）では予防効果が認められている。使用するとしても 10,000Ｕ／日が推奨される（Lancet 349 : 1569-1581, 1997）。慢性期にはワーファリンの有効性が確立している（脳梗塞の早退危険度減少；ワーファリン vs.コントロール68%（$p < 0.001$）、アスピリン vs.コントロール21%（$p = 0.03$）、ワーファリン vs.アスピリン47%（$p < 0.01$）（Neurology 51 : 674-681, 1998）。従って１次予防には、低リスクではアスピリン、高リスクではワーファリン、２次予防にはワーファリンが推奨されている（Ann Int Med 131 : 492-501, 1999）。

３）ラクナ梗塞は、主幹動脈から分枝した穿通枝領域の小梗塞で、Ｘ線 CT 又は MR-CT で 1.5 cm以下のものを指す。日本では、トロンボキサンA_2合成酵素阻害剤であるオザグレル（ozagrel Na）の有効性が示されており（臨床医薬７：353-388, 1991）、急性期に使用される。成因には、穿通枝のリポヒアリノーシス／フィブリノイド壊死、穿通枝の微小アテローム、穿通枝入口部のアテローム（Branch Atheromatous Disease : BAD）、主幹動脈からの微小梗栓、心原性微小塞栓の５つがある。前２者が狭義のラクナで、凝固系の関与は無いとされている。したがって、安易な抗血小板剤の投与は、脳出血のリスクを高める可能性があるので慎むべきである。狭義のラクナの最大の危険因子は、高血圧症とされている。これを含めた、脳梗塞の危険因子の管理と生活習慣の改善をまず第一とする。一方、BAD では抗血小板療法が適応である。（後２者の可能性の検索と治療については、上述のそれぞれの項を参照。）

無症候性脳梗塞は、ａ）脳卒中の既往がない、ｂ）神経症候がない、ｃ）画像診断上脳梗塞が確認される場合を指し、MRI の普及により発見が多くなってきている。まず、脳梗塞の危険因子の管理と生活習慣の改善を図る必要がある。狭義のラクナがその大半を占めると考えられるが、無症候性 BAD、無症候性アテローム血栓性脳梗塞、無症候性脳塞栓の可能性も少なからず有るので、臨床病型の検討は必須（検索と治療については、上述のそれぞれの項を参照。）である。

写真部写真展

第28回西多摩医師会写真部写真展が11月20日(火)から11月26日(月)まで羽村市コミュニティーセンター2階ロビーにて開催されました。

今回の写真展は、前回より西多摩医師会会員の来館が少なかった様で、残念です。会員の皆さまのご来場をお待ちしています。

11月26日写真展終了後、恒例の写真批評会が、写真家　桜井 保秋 先生のご指導のもとで行われました。展示作品一枚一枚についての苦労話に花が咲きました。その際に、話題となったそれぞれの会員の自慢の一点を、医師会報に掲載いたします。

写真に興味のある会員は、写真部の松原部長までご一報下さい。次回は、14年6月を予定しております。

(写真部　細谷 純一郎)

楽園の住人　　田村 啓彦

ETかも？ーオオカマキリー　　坂本 保己

ペット（ノスリ）　　細谷 純一郎

紅　葉　　石田 信彦

立山連峰　　石井 好明

イルミネーション　　小林 康光

彼岸のころ　　松原 貞一

平 安 ーカワセミー　　細谷 純一郎

曼殊院（京都）　　真鍋 勉

台風一過　　鹿野 純一

「早期胃癌研究会」見聞記

「早期胃癌研究会」。発足してから何十年かたっていますが、まだやっています。毎月第3水曜日午後6時から、皇居前東商ホールで、お茶とおすしの折詰弁当が出て、帰りがけに寄る者にとって大変有難いものでした。（昔はタダだったので、尚、有難かったのですが、御時勢か、最近は1000円の参加費を徴収されます。）母校の医局の読影会と共に、読影力の養成に大変役立ったことを感謝しています。

司会者から指名された人（どうやって選ばれるのか知りません）が、次々と投影されるレントゲン・内視鏡の所見を読み、それについて、それぞれの権威者（昔は「権威者」のしゃべりっぷりがハナについたこともありましたが、気にならなくなりました。）およびフロアからの討論があり、摘出標本・病理所見の説明がある、という会の形式は相変らずですが、いつの間にか大腸の症例の方が多くなっています。（しかし、頑固に「胃癌」と名乗り、「がん」という表現も使っていません。）

ある日の内容を御報告します。

症例1：一ヶ月前からの黒色便・貧血で検査され、胃の穹隆部の 7.5 × 5.5 cmの平滑筋腫が、十二指腸球部に嵌屯していた81才女性。病理診断には、ボーダーライン悪性ではないかとの異論あり。

症例2：検診で噴門部近傍の粘膜下腫瘤が発見された53才男性。内視鏡で隆起の先端に憩室様病変があり、中から肉芽様突出物が認められ、超音波で多房性腫瘤と診断された腺癌。腹腔鏡下に噴門切除された。病理診断には、過形成、腺腫などの異論あり。

症例3：1年前、S状結腸癌を手術され、半年前から左下腹痛、下痢が出現し、検査により吻合部口側に縦走するびらん・潰瘍が認められ、結腸再切除された69才女性。下腸間膜静脈閉塞による阻血性腸炎であった。

症例4：ドックで便潜血陽性のため検査され、内視鏡検査で発見された上行結腸進行癌の59才女性。右結腸切除施行。Endocrine Carcinomaと診断された。病理学者の間で、いろいろ議論があった。

症例5：von Recklinghausen病があり、10年前、全結腸型潰瘍性大腸炎を発症し、4年前に結腸全摘、J型回腸嚢肛門吻合行が行われ、1年前から下痢が増悪した40才男性。内視鏡で回腸嚢に多発性腫瘍を認め、ポリペクにより炎症性ポリープと診断。ポリープ多発による回腸嚢内腔狭窄のための下痢と判断。40ヶのポリペクを行い、内腔が拡がった為か症状が改善した。回腸嚢形成のための長い吻合線に沿って炎症性ポリープが多発していた。Neurofibromatosis の腫瘤ではなかった。

（この日も大腸が5分の3を占め、癌は2例のみでした。）

石井 好明

理事会報告 ★ Information

11月定例理事会　平成13年11月27日　西多摩医師会館

〔出席者：宮川・玉木・坂本・小机・細谷・石田・葉山・横田・星野・松原・森本〕

【1】 報告事項

1．都医地区医師会長協議会報告　（宮川会長）

Ⅰ．都医からの伝達事項

(1) 「医療とニューメディアを考える会」第186回例会について

(2) 非会員の意識調査に関する地区医師会未加入医療機関数の調査について

西多摩では74の医療機関が未加入であり、その意識調査をする予定である。

(3) 平成13年度の地方交付税における学校保健関係の財源措置について

(1) 学校医報酬

①幼稚園

人口10万人当たり、4園を基準として、1園当たり2名の校医を算定し、1名当たり224千円（前年度224千円）を積算。

②小学校

1学校（児童数720人）当たり、3名の学校医を算定し、2名については1名当たり224千円（前年度224千円）を積算し、1名（ＢＣＧ接種に従事した学校医）については、252千円（前年度252千円）を積算。

③中学校

1学校（生徒数600人）当たり、3名の学校医を算定し、1名当たり224千円（前年度224千円）を積算。

④高等学校

1学校（生徒数600人）当たり、3名の学校医を算定し、1名当たり224千円（前年度224千円）を積算。

(2) 児童生徒健康管理手数料（寄生虫、結核予防、心電図等）

［市町村分 10,991千円、（前年度 11,273千円）］

(3) 教職員検診手数料

［市町村分 6,433千円、（前年度 6,278千円）］

(4) 公立学校教職員保健管理費

公立学校における教職員の保健管理に係る学校医の報酬として、「公立学校教職員保健管理費」が計上されております。

［道府県分 5,100千円、（前年度 5,100千円）］

［市町村分 1,150千円、（前年度 1,150千円）］

(5) 非常災害時における被災者のための食糧および医薬品等の非常物資の購入備蓄に要する経費が計上されております。なお、この経費については、学校関係分も含まれております。

①道府県分：非常用物資購入費 24,700千円（前年度 24,700千円）

②市町村分：非常用物資購入費　3,360千円（前年度　3,360千円）

(6) 学校環境衛生の維持改善のための定期検査における水質検査や学校給食における食中毒防止のための学校給食調理員等の検便検査、施設整備等（調理施設、調理器具、食材、作業衣など）に対する細菌検査実施に要する経費が計上されております。

①道府県分：学校環境衛生検査委託 19,184千円（前年度 19,319千円）

②市町村分：学校環境衛生検査委託　9,741千円（前年度　9,810千円）

(4) 学校におけるインフルエンザの予防及び発生時の措置について

早期に出席停止の措置をとり、時に臨時休業を検討する。

(5) 東京都医師会学校医会主催平成13年度第２回学校医研修会（初任者研修）及び平成13年度学校保健研修会第２回学校医分科会の開催について

東京都医師会学校医会平成13年度第2回学校医研修会開催要項

1．日　　時　　平成13年12月1日（土）午後2時から4時10分

2．場　　所　　千代田区神田駿河台2－5　東京都医師会4階　講堂・会議室

3．趣　　旨　　学校医として身に付けるべき必須かつ基礎的な事項を中心に、学校現場直面する問題の具体的対応等について研修をいたしますので、特に学校医就任概ね５年以内の先生には是非ご出席をお願いいたします。

4．研修内容　　総論を始めに講演し、その後、内科・眼科・耳鼻科の各科に場所を分かれておこないます。（講師4名4演題）

第１部　演題　これからの学校医はどうあるべきか（学校医総論）

時間　午後2時～2時50分その後10分質疑応答　3時終了予定

講師　東京都医師会学校医委員会委員長

東　川　泰　之

午後3時から3時10分会場移動（3会場に分かれる）休憩

第２部　演題　内科・眼科・耳鼻咽喉科各科の学校医の立場から（学校医各論）

時間　午後3時10分～4時その後10分質疑応答　4時10分終了予定

①　内科学校医の職務を中心として

講師　東京都医師会学校医委員会副委員長

川　村　　敏

②　眼科学校医の職務を中心として

講師　東京都眼科医会会員・立川市立第三小学校学校医

矢　澤　興　司

③　耳鼻咽喉科学校医の職務を中心として

講師　東京都耳鼻咽喉科医会会長・東京都医師会学校医会副会長

牛　嶋　申太郎

※　東京都医師会発行『学校医の手引』をご持参ください。

平成13年度学校保健研修会第２回学校医分科会

平成13年度学校保健（学校医）研修会

（東京都医師会学校医会第３回学校医研修会）

日　場　　平成13年12月8日（土）午後2時～午後4時30分
時　所　　都民ホール（都議会議事堂１階）

1．開　会　東京都医師会理事・東京都学校保健会専務理事
内　藤　裕　郎

2．挨　拶　東京都医師会長・東京都学校保健会長
平成13年度学校保健研修会実行委員会会長　　佐々木　健　雄
東京都教育庁体育部保健給食課長　　田　原　なるみ

3．シンポジウム　テーマ　『学校精神保健の現状と対策』
座　　長　　東海大学医学部精神科教授　　山　崎　晃　資
シンポジスト

○　学校精神保健に対する文部科学省の取組み
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課専門官
森　光　敬　子

○　養護教諭からみた学校精神保健の現状と対策～
北区立紅葉中学校養護教諭
中　村　真理子

○　精神科学校医からみた学校精神保健の現状と対策～
東京都医師会精神保健検討委員会委員
豊島区立全小学校精神科学校医
榎　本　　稔

○　児童精神科専門医からみた学校精神保健の現状と対策
東京慈恵会医科大学精神科
小　野　和　也

○　小児科専門医（児童精神科領域）からみた学校精神保健の現状と対策
埼玉県立小児医療センター内科第２部副部長
奥　山　眞紀子

---

(6)　「炭疽菌・狂牛病対策室」の設置について　― 地区情報第１報から ―

都医師会内に設置し、地区医師会と共に適切な対応をはかる。

(7)　改正予防接種法の施行について

― 厚生労働省所管「予防接種に係る全国主管課長会議資料」―

インフルエンザワクチン接種の追加。

(8)　高齢者等インフルエンザ予防接種の実施について

― 三者協合意事項 ―

(9) 在宅難病患者訪問診療事業について
— 平成13年度第２四半期の実績 —
実施計画数はなるべく消化してもらいたい。

(10) 東京都大気汚染医療費助成制度説明会の開催について

(11) 日本医師会認定産業医制度における研修会の開催について

(12) 「国民医療危機突破全国総決起大会」の開催について
平成13年12月１日（土）午後２時　於：日比谷公会堂
西多摩医師会に９名の割当てあり。

(13) 患者負担増による医療保険改革阻止署名運動について
西多摩医師会では6500名の署名が集まる。

Ⅱ．協議事項

Ⅲ．地区医師会からの報告
(1) 蒲田医師会創立五十周年記念式典等について（蒲田医師会）

Ⅳ．その他

2．市民健康講座支出報告

市民健康講座費用明細

講師謝礼・車代	377,500	雑　費	28,245
会場使用・設営費用等	37,100	合　計	442,845

開催日：13年11月17日（土）羽村市コミュニティセンター
講　師：ロミ・山田氏

3．各部報告
（総　務　部）　「西多摩健康フォーラム2001」報告。会報12月号参照のこと。
（学　術　部）　11月28日（水）三公立病院講演会。

4．各地区会よりの報告　　（各地区長）
（青　梅）　11月16日（金）市福祉課との懇親会。
11月19日（月）インフルエンザワクチン接種の説明会。
青梅マラソンについて、14年2月17日（日）開催。医療班関係者のミーティングを予定。事故については、保険に加入しているため、大会側が責任をもつ。

（福　生）　12月13日（木）休日診療所の忘年研修会。
（羽　村）　11月14日（水）医師会と医療行政関係者との懇談会。
　　11月30日（金）例会。
　　12月18日（火）忘年会。
（あきる野）11月19日（月）例会
　　12月13日（木）保健連絡会（忘年会）。
（瑞　穂）　欠席。
（日の出）　12月７日（金）保健衛生事業連絡調整会議及び懇親会の予定。

5．その他

11月26日（月）多摩川保健所にて障害保健福祉部会会議が開催された。次の事項が討議された。
報告事項：多摩地域の保健サービスの再構築について。
検討事項：精神保健福祉対策について
難病対策について
歯科保健対策について

【2】　報告承認事項

1．入会会員について　　―― 承認 ――

A会員　馬場　潤。

【3】　協議事項

1．フリートーキング

クリスマス会について。

12月定例理事会　平成13年12月11日　西多摩医師会館

〔出席者：宮川、真鍋、玉木、小机、唐橋、足立、星野、神尾、葉山、横田、松原、森本〕

【1】　報告事項

1．各部報告

（学　術　部）　平成12年度生涯教育集計結果の概要
西多摩医師会：日医会員数　241
日医会員申告者数　235
申告率　97.5％
全　体：日医会員数　154,011
申告率　66.8％

2．各地区会よりの報告　　（各地区長）

（青　梅）　12月13日（木）忘年会。
（福　生）　12月１日（木）福生市休日診療所忘年研修会。
（羽　村）　12月18日（火）忘年会。
（あきる野）12月13日（木）市保険課と懇親会。
（瑞　穂）　欠席。
（日の出）　12月21日（金）教育委員会との懇談会。

3．その他

なし。

【2】　報告承認事項

1．入会会員について　　―― 承認 ――

Ｂ会員　日の出ヶ丘病院　１名

2．新年１月第一回定例理事会について

特別のことなき場合恒例により休会とします。

【3】　協議事項

1．公立福生病院基本構想策定審議会委員推薦の件　　―― 承認 ――

委員18名で構成、医師会からは３名の委員を推薦の予定。

2．新年賀詞交歓会について　　―― 承認 ――

各地区会に出席者を割当て。

3．平成14年度の事業計画等の準備について

4．平成14年度より実施の西多摩地域産業保健センターの年間窓口開設相談料について

―― 承認 ――

開設希望認定医療機関　29先　〔P23参照〕

年間１先 50,000円とする。

5．その他

○クリスマス会参加状況、収支予想、その他　　―― 承認 ――

〔P24参照〕

○年末年始の西多摩医師会館　休館のお知らせの件

12月29日(土)～１月６日(日)まで。

健康相談業務窓口開設協力医療機関

13.12

NO	氏　名	認定医	病医院名	住　　所	電話番号
1	関谷進一郎	関谷進一郎	栄町診療所	羽村市栄町 1-14-46	042-555-8233
2	塩澤　三朗	塩澤　三朗	塩澤医院	羽村市神明台 1-35-4	042-554-7370
3	松原　貞一	松原　貞一	松原内科医院	羽村市羽東 1-16-3	042-554-2427
4	横田　卓史	横田　卓史	横田ｸﾘﾆｯｸ	羽村市羽東 1-8-1	042-554-8580
5	山口賢一郎	山口賢一郎	山口内科ｸﾘﾆｯｸ	羽村市栄町 2-15-4	042-570-7661
6	真鍋　勉	真鍋　勉	真鍋ｸﾘﾆｯｸ	羽村市小作台 2-7-13	042-554-6511
7	玉木　一弘	玉木　一弘	福生ｸﾘﾆｯｸ	福生市加美平 3-35-13	042-551-2312
8	西村　邦康	西村　曜	西村医院	福生市熊川 927	042-553-0182
9	宮川　栄次	宮川　栄次	大聖病院	福生市福生 871	042-551-1311
10	波多野元久	波多野元久	波多野内科医院	福生市志茂 156	042-551-0143
11	内山　大	宮城　真理	内山耳鼻咽喉科医院	福生市福生 1298	042-551-0989
12	木野村幸彦	木野村幸彦	木野村医院	福生市牛浜 130	042-551-0283
13	星野　照夫	星野　照夫	牛浜内科ｸﾘﾆｯｸ	福生市志茂 62	042-539-1951
14	新井　敏彦	新井　敏彦	新井ｸﾘﾆｯｸ	瑞穂町長岡 1-51-2	042-557-0018
15	高木　敏	高木　敏	新町ｸﾘﾆｯｸ	青梅市新町 3-53-5	0428-31-5301
16	細谷純一郎	細谷純一郎	細谷内科医院	青梅市河辺町 5-21-3 河辺ｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ	0428-21-0019
17	森本　晉	森本　晉	大河原森本医院	青梅市仲町 251	0428-22-2047
18	石田　信彦	石田　信彦	梅園病院	青梅市長淵 9-1412-4	0428-24-3798
19	片平　潤一	片平　潤一	片平医院	青梅市河辺町 10-16-20	0428-21-1741
20	宮下　吉弘	宮下　吉弘	沢井診療所	青梅市沢井 2-850	0428-78-8432
21	高木　直	井波　宏壽	高木病院	青梅市新町 3-49-1	0428-31-5255
22	小田　彰	小田　彰	大門診療所	青梅市大門 2-261-1	0428-31-1251
23	大堀　洋一	大堀　洋一	大堀医院	青梅市今井 5-2440-159	0428-31-9098
24	伊藤　敬一	伊藤　敬一	伊藤整形外科	あきる野市秋川 3-5-7	042-558-6211
25	奥野　仁	奥野　仁	奥野医院	あきる野市下代継 95-11	042-559-2568
26	樋口　昭夫	樋口　昭夫	樋口ｸﾘﾆｯｸ	あきる野市秋川 3-7-5	042-559-8122
27	進藤　晃	進藤　幸雄	大久野病院	日の出町大久野 6416	042-597-0873
28	蓼沼　翼	川端　信弥	日の出ケ丘病院	日の出町大久野 310	042-597-0811
29	神尾　重則	神尾　重則	落合ｸﾘﾆｯｸ	日の出町大久野 88-1	042-597-3652
30					

クリスマス会 13年度収支予想および過年度実績

13年度収支明細予想				
収入			支出	
会員A	10,000× 35	350,000	フォレストイン昭和支払（コンパ含む）	1,260,000
〃 B	5,000× 10	50,000	景品代金	260,000
〃 同伴者	2,000×125	250,000	余興（会員分）	100,000
子供	40		アトラクション（マジック・フラメンコ）	120,000
本会補助		1,160,000	その他	70,000
合計	1,810,000		合計	1,810,000
13.12.17 フォレストイン昭和館			参加者数142名 1人当り10,650	

過年度

11年度収支明細				
収入			支出	
会員A	10,000× 38	380,000	フォレストイン昭和支払	1,100,355
〃 B	5,000× 11	55,000	景品代金	200,000
〃 同伴者	2,000× 83	166,000	アトラクション（マジック・フラダンス）	111,470
本会補助		810,825		
合計	1,411,825		合計	1,411,825
11.12.20 フォレストイン昭和館			参加者数148名 1人当り10,600	

12年度収支明細				
収入			支出	
会員A	10,000× 35	350,000	フォレストイン昭和支払	1,195,162
〃 B	5,000× 9	45,000	景品代金	214,995
〃 同伴者	2,000×104	208,000	アトラクション（マジック・フラダンス）	180,000
本会補助		987,157		
合計	1,590,157		合計	1,590,157

会員通知

○会報
○産業医研修会（杉並・中野・新宿区医師会）
○社保振込銀行変更
○13年度3期分会費納入について
○産業医研修会（中野区医師会）
○≪日本医師会主催≫平成13年度乳幼児保健講習会の開催について
○「平成13年度東京都医師会主催 日本医師会生涯教育講座」の追加開催について

お知らせ

事務局より　お知らせ

平成14年2月（1月診療分）の

保険請求書類提出

2月8日（金）

―― 正午迄です ――

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第二水曜日午後二時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

◎相談日　**1月は9日（水）**
2月は13日（水）の予定です。
◎場　所　西多摩医師会館和室
◎内　容　医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料　無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『ご来光』

数年前の正月、日の出前の本栖湖へ行き、ご来光を待ちうけてこの写真をとりました。零下4度冷気の中、ご来光の荘厳さには思わず手を合わせたくなるような感動を覚えました。

稲垣壮太郎

あとがき

謹賀新年

十二支の午の山といえば甲斐駒ヶ岳をあげます。端正なピラミッドの山容で、威と品を備えた名峰です。

かつてこの山麓には牧場が多かったと推せられます。武田信玄が勢力を拡大したのは最強の騎馬軍団があってのことでした。

しののめの　明けをことほぐ　甲斐の駒
いさみいななき　スカブラを駆ける

初景色の山々は瑞々しい淑気にみちています。この白い風景の中から何を見いだしてゆけるのでしょうか。信玄のかくし湯にたゆとい、馬肉の燻製を酒の肴に、若菜の塩粥をすする。新しい暦がふたたび廻りはじめました。

明るい展望の開ける年にならんことを。

神尾重則

平成14年度新年賀詞交歓会

1月19日(土)　午後6時～
青梅市福祉センター

社団法人　西多摩医師会　平成14年1月1日発行

会長　宮川栄次　〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103　TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会　森本　晉
石井好明　神尾重則　片平潤一　込田茂夫
清水佐和道　高水松夫　田村啓彦　細谷純一郎

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

健康が 21世紀の扉を開く

命の輝きを見つめ続けて‥‥
㈱武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・Sサービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309－8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659